

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平4-130574

⑬ Int. Cl.⁵

G 06 F 15/30
G 07 D 9/00

識別記号

4 3 6 H
Z

庁内整理番号

6798-5L
8111-3E

⑭ 公開 平成4年(1992)5月1日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全6頁)

⑮ 発明の名称 手形小切手処理方式

⑯ 特 願 平2-252512

⑰ 出 願 平2(1990)9月20日

⑱ 発 明 者 片 岡 達 史 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社
内

⑲ 発 明 者 鎌 田 英 夫 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社
内

⑳ 発 明 者 松 橋 智 浩 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社
内

㉑ 発 明 者 稲 岡 秀 行 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社
内

㉒ 出 願 人 富士通株式会社 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地

㉓ 代 理 人 弁理士 井 桁 貞一

最終頁に続く

明 細 書

1. 発明の名称

手形小切手処理方式

2. 特許請求の範囲

処理装置(1)と、仮入金ファイル(2)と、
イメージファイル(3)と、手形小切手読取装置
(4)と、窓口装置(5)とを有し、

窓口装置(5)は、手形小切手が保持する磁気
印字文字で記録された銀行コード、口座番号等の
手形小切手識別情報を読取り、操作員が入力する
金額データを該手形小切手識別情報に付加して、
仮入金ファイル(2)へ格納する一線カウンタの
処理を行い、

手形小切手読取装置(4)は、一線カウンタの
処理が終わった手形小切手を読取り、該手形小切
手識別情報と、手形小切手の両面のイメージ情報
を読取り、該情報を処理装置(1)へ送出し、

処理装置(1)は、手形小切手読取装置(4)
からの該手形小切手識別情報に基づき仮入金ファ

イル(2)から該手形小切手の金額データを検索
抽出し、該金額データと、該手形小切手識別情報
と両面のイメージ情報とを結合して、イメージフ
ァイル(3)へ格納し、

該イメージファイル(3)を通信回線へ送出す
ることを特徴とする手形小切手処理方式。

3. 発明の詳細な説明

〔 概 要 〕

金融機関に於ける手形小切手処理方式に関し、
一線カウンタでの手形小切手受付処理が終わっ
た後の手形小切手の情報処理を、電子化すること
により、手形小切手処理の迅速化を目的とし、

処理装置と、仮入金ファイルと、イメージファ
イルと、手形小切手読取装置と、窓口装置とを有
し、窓口装置は、手形小切手が保持する磁気印字
文字で記録された銀行コード、口座番号等の手形
小切手識別情報を読取り、操作員が入力する金額
データを該手形小切手識別情報に付加して、仮入
金ファイルへ格納する一線カウンタの処理を行い、

手形小切手読取装置は、一線カウンタの処理が終わった手形小切手を読取り、該手形小切手識別情報と、手形小切手の両面のイメージ情報を読取り、該情報を処理装置へ送出し、処理装置は、手形小切手読取装置からの該手形小切手識別情報に基づき仮入金ファイルから該手形小切手の金額データを検索抽出し、該金額データと、該手形小切手識別情報と両面のイメージ情報とを結合して、イメージファイルへ格納し、該イメージファイルを通信回線へ送出するように構成する。

〔産業上の利用分野〕

本発明は、手形小切手の処理方式に関する。

従来の処理方式は、手形小切手の決裁のために手形小切手の現物運搬を前提に行われていたために、磁気印字文字による金額データの印字や現物運搬に要する時間的遅滞等の処理効率に問題があった。決裁に必要な金額データ、店舗関連情報、手形小切手に記入してある裏書き情報等の処理を電子化することにより、手形小切手の処理効

率向上を図る。

〔従来の技術〕

一般に銀行に持参された手形或いは小切手（以下手形小切手と略す）は、一線カウンタで受付処理が行われ、該処理が終わると該手形小切手は後方に回送されて、後方処理と呼ばれる手形小切手の読取りとデータの照合が行われる。

第 5 図に従来方式の構成図を示す。

一線カウンタへ持ち込まれた手形小切手 20 は窓口装置 55 の通帳プリンタ 56 へ挿入され、該手形小切手 20 の券面に磁気印字文字（MICR と呼ぶ）で記録された銀行コード、支店コード、口座番号等の情報（以下手形小切手識別情報と呼ぶ）が読取られる。次に操作員が券面の金額欄を目視しながら金額データをキー（打鍵）入力する。

それぞれ入力された該手形小切手識別情報と、該金額データを、データ処理格納部 57 が仮入金ファイル 21 へ格納することにより一線カウンタの受付処理が終了する。

窓口装置 55 で受付処理された手形小切手 20 は後

方処理へ回され、該手形小切手は磁気印字文字読取装置 23 へ入力されて MICR 印字されている手形小切手識別情報が読取られる。

該手形小切手識別情報の中の口座番号が金額読出装置 24 へ入力され、該金額読出装置 24 は該口座番号合に基づいて仮入金ファイル 21 を検索し、対応する該手形小切手の金額データを仮入金ファイル 21 から読み出す。

金額エンコーダ 25 は、該手形小切手 20 の所定箇所へ読み出した該金額を、磁気印字文字で印字する。次にイメージ両面読取装置 32 が該手形小切手 20 の両面情報を読みとり、イメージ両面データとしてイメージファイル 31 へ格納する。

上記処理が終了した手形小切手 26 は、手形交換所へ運搬されて決裁処理が行われていた。

〔発明が解決しようとする課題〕

金融機関に於ける手形或いは小切手の決裁処理は、手形小切手へ金額データを磁気印字文字で印字し、現物を手形交換所へ持参する等の、現物の

流れを主体にして行われるために処理効率の向上に限界があった。

本発明は、一線カウンタでの手形小切手受付処理が終わった後の手形小切手の情報処理を、電子化することにより、手形小切手処理の迅速化を目的とする。

〔課題を解決するための手段〕

第 1 図は本発明の原理ブロック図である。

処理装置 1 と、仮入金ファイル 2 と、イメージファイル 3 と、手形小切手読取装置 4 と、窓口装置 5 とを有し、窓口装置 5 は、手形小切手が保持する磁気印字文字で記録された銀行コード、口座番号等の手形小切手識別情報を読取り、操作員が入力する金額データを該手形小切手識別情報に付加して、仮入金ファイル 2 へ格納する一線カウンタの処理を行い、手形小切手読取装置 4 は、一線カウンタの処理が終わった手形小切手を読取り、該手形小切手識別情報と、手形小切手の両面のイメージ情報を読取り、該情報を処理装置 1 へ送出

し、処理装置 1 は、手形小切手読取装置 4 からの該手形小切手識別情報に基づき仮入金ファイル 2 から該手形小切手の金額データを検索抽出し、該金額データと、該手形小切手識別情報と両面のイメージ情報とを結合して、イメージファイル 3 へ格納し、該イメージファイルを通信回線へ送出する。

〔作用〕

本方式により、手形小切手に関する手形小切手識別情報、一線カウンタと後方処理で照合確認後に磁気印字された金額データ等の、手形小切手の両面が保持する重要なデータが全てイメージファイルとして電子ファイル化され、該電子化された該イメージファイルを通信用回線を介して伝送処理することにより、M I C R 印字や手形小切手の現物運搬等の必要がなくなり、データ処理、データの移動が電子化されて処理量の増大に対処することが可能となる。

り、該手形小切手識別情報と該イメージ情報を処理装置 1 へ渡す。

処理装置 1 のデータ照合検索部 14 は処理ステップ 95 で、該手形小切手識別情報の中の口座番号から仮入金ファイル 2 を検索して、該手形小切手に対応する金額データを読み出し、該金額データをデータ結合部 16 へ渡す。データ圧縮部 15 は処理ステップ 97 で、手形小切手の両面のイメージ情報を、圧縮したイメージ両面データに作成し、データ結合部 16 へ渡す。データ結合部 16 は処理ステップ 98 で、手形小切手識別情報と、金額データと、圧縮されたイメージ両面データを結合してイメージファイル 3 へ格納する。

データ伝送部 17 は、処理ステップ 99 でイメージファイル 3 を、通信回線経由で手形交換所へ伝送する。

第 4 図に手形交換処理の構成図を示す。

本図にて銀行の各営業店に持ち込まれた手形小切手の手形交換処理の実施例を説明する。

銀行の各営業店の営業店システム 11 は、他の営

〔実施例〕

第 2 図に実施例の構成図を示し、第 3 図に実施例の処理手順図を示す。

一線カウンタで受付られた手形小切手 20 は、窓口装置 5 へ挿入され、処理ステップ 91 で通帳プリンタ 51 は、該手形小切手 20 に磁気印字文字 (M I C R) で記録されている M I C R 文字からなる手形小切手識別情報 (手形小切手の券面に磁気印字文字で記録された銀行コード、支店コード、口座番号等の情報) を読取り、処理ステップ 92 で操作員によって打鍵される金額データを読取る。

処理ステップ 93 で、データ処理格納部 52 が該手形小切手識別情報と該金額データから仮入金ファイル 2 を作成する。

窓口装置 5 での処理が終了した手形小切手 20 は後方処理へ回送されて手形小切手読取装置 4 に挿入される。処理ステップ 94 で磁気印字文字読取部 42 は、手形小切手識別情報を読取り、処理ステップ 95 でイメージ両面読取部 43 は、手形小切手 20 の両面のイメージデータをイメージ情報として読取

業店システム 12 と同様に該銀行の事務センタの計算機システム 71 と通信回線で結ばれており、該銀行の事務センタは手形交換所データ処理システム 72 と通信回線で結合されている。

営業店システム 11 は決裁の必要な手形小切手 20 のイメージファイル 3 を事務センタの計算機システム 71 へ伝送し、計算機システム 71 は各営業店 (支店) からのイメージファイルを当日の処理分だけ集積した後、自行で処理出来ない他行分のイメージファイルを一括して手形交換所データ処理システム 72 へ伝送する。

手形交換所データ処理システム 72 は、手形交換の対象となる複数の銀行の事務センタの計算機システム 73 とネットワークで結合されており、各行 (A 銀行、B 銀行・・・等) から伝送された各行のイメージファイルを仕分けして、各銀行に振り分けて、イメージファイル 3 の情報 (イメージ両面データ、金額、銀行名、口座番号、手形番号等) を該当する銀行の事務センタの計算機システム 73、71 へ伝送する。事務センタの計算機システ

ム73（計算機システム71でも同様である）は該イメージファイル3の情報を通信制御装置77経由で受信し、ファイル装置74に格納する。ファイル装置74に格納されたイメージファイルをデータ照合端末装置76に表示して、手形小切手情報の要件チェック（金額、振出人、印鑑の照合、期日等）を行う。要件チェックの完了した手形小切手に関しては、ホスト計算機システム75へその旨通知することによって、該手形小切手の振出入の口座から金額が引き落とされる。

〔発明の効果〕

本発明により、手形小切手に関するID情報、金額データ、手形小切手の両面が保持する重要なデータが全て電子ファイル化されるため、従来の手形小切手の現物に主体をおいた処理に比べ、データの保存、検索、移動、及びデータ処理の高信頼性化が実現される。

5, 55は窓口装置、 51, 56は通帳プリンタ、
52, 57はデータ処理格納部、
71, 73は計算機システム、
72は手形交換所データ処理システム、
74はファイル装置、
75はホスト計算機システム、
76はデータ照合確認端末装置、
77は通信制御装置、
91～99は処理ステップを表す。

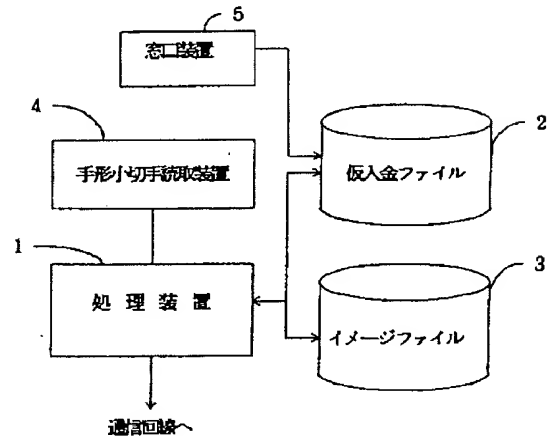
代理人 弁理士 井 裕 貞



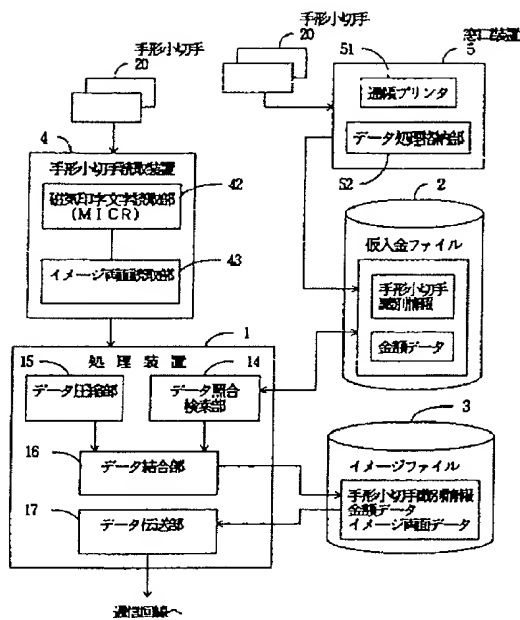
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の原理ブロック図、
第2図は実施例の構成図、
第3図は実施例の処理手順図、
第4図は手形交換処理の説明図、
第5図は従来方式の構成図を示し、
図において、

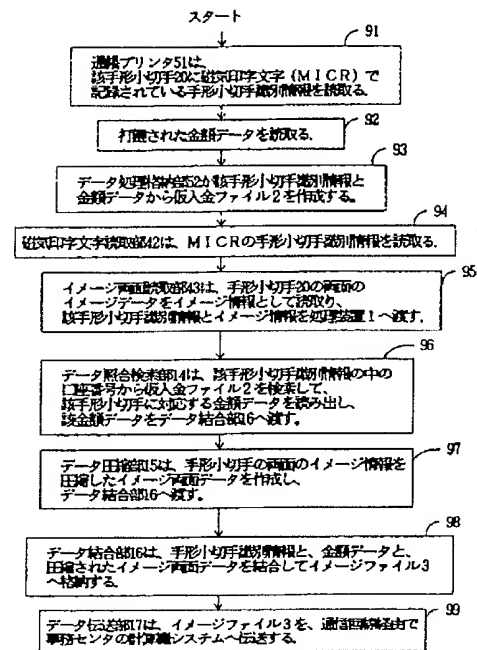
1は処理装置、 11は営業店システム、
12は各営業店システム、14はデータ照合検索部、
15はデータ圧縮部、 16はデータ結合部、
17はデータ伝送部、
2, 21は仮入金ファイル、
20, 26は手形小切手、
23は磁気印字文字読取装置、
24は金額読出装置、 25金額エンコーダ、
3, 31はイメージファイル、
32はイメージ両面読取装置、
4は手形小切手読取装置、
42は磁気印字文字読取部、
43イメージ両面読取部、



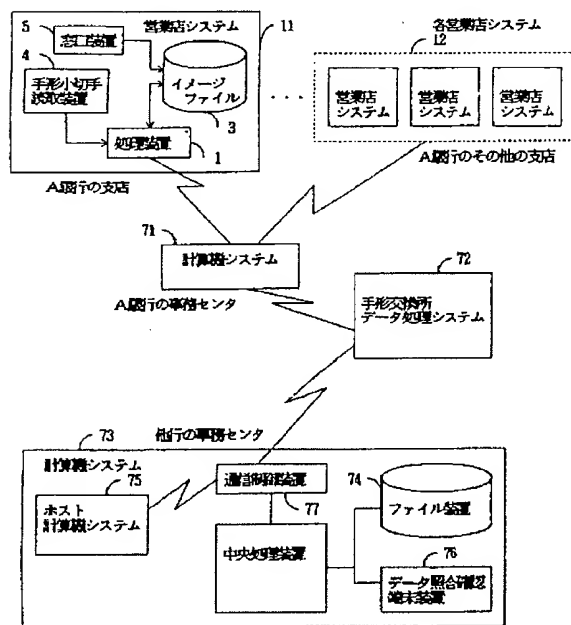
本発明の原理ブロック図
第1図



実施例の構成図
第2図

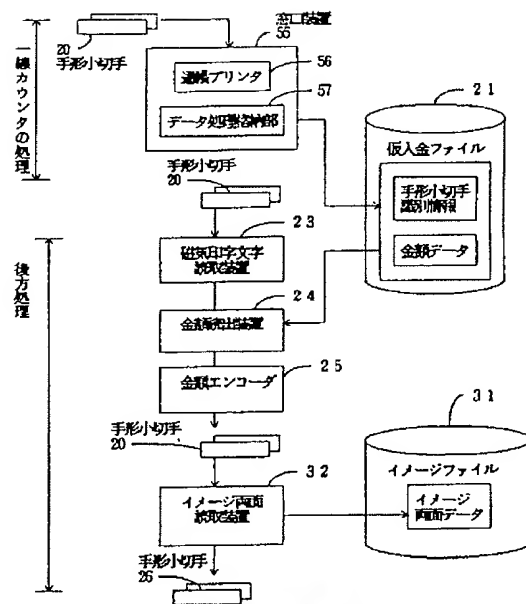


第3図



手形交換処理の説明図

第4図



従来方式の構成図
第5図

特開平 4-130574 (6)

第 1 頁の続き

⑦発 明 者 青 島 幸 一 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社
内
⑦発 明 者 渡 部 英 一 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社
内